

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴 2023 年 12 月 1 日現在

【圏域の人口等】

圏域人口：56,618人 高齢者人口：13,873人 高齢化率：24.5%

【圏域の特徴】

- ・市役所、保健所といった公共機関が集中し、公共交通機関や生活関連企業が整備されており、生活がしやすく利便性の高い圏域。
- ・在宅介護サービス事業所は多数あるものの、入所施設、入院できる病院は少ない。
- ・戦前から高度成長期にかけて開発された住宅街の克明、桜塚、南桜塚校区は、単身高齢者世帯が多く、とりわけ築年数の古いマンションや府営住宅では、棟内での高齢化が著しい。農村地域だった熊野田校区は、支援が必要になっても家内で抱え込み、問題が顕在化しにくい。マンションやUR団地が立ち並び泉丘校区も、棟内での高齢化が進行し、戸建て住宅と違い生活実態が把握しにくい状況の中、近隣トラブル等で問題が発見されることが増えている。
- ・どの校区も地域活動は活発で、センターと民生・児童委員、校区福祉委員等地域関係者とのネットワークは構築されているものの、担い手が高齢化しており、世代交代が課題となっている。
- ・いずれの校区も、コロナ禍による活動自粛が高齢者の身体的、精神的、社会的機能の低下を引き起こし、それに伴い、生活困窮や認知症、虐待、ダブルケアといった相談が増加している。また、他地域から転入した世帯の閉じこもりや孤立化が課題。

取り組み方針や特徴

【センターの運営方針】

地域包括ケアシステムの構築に向け、「地域に住む支援が必要な高齢者を、一人も孤立させない」「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を目標とし、地域のあらゆる関係者と連携を図りながら、地域支援を推進していく方針に基づき、各事業に取り組んでいる。

【特に力を入れて活動している点】

「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を実現するために、法人の強みを活かしたCSW等とのきめ細かい連携を図りながら、地域に足を運び、地域の状況や

課題の把握に努め、各校区の持つ特性や強みを活かした支援を行うことに力を入れている。

【活動の中での課題やその解決策】

問題を抱えていても自ら声をあげない、誰からも気づかれない高齢者が地域に存在している。その数は、コロナ禍における活動自粛により増加傾向にある。孤立した人、支援を必要とする人をのがさないようにすることを課題にしている。また、支援が必要な人は複合的な問題を抱えていることが多いため、制度横断的に対応していくことが求められる。制度に熟知するとともに、速やかで適切な対応が行えるようにすることも課題としている。課題を解決するために、「きめ細かいセーフティネットの構築」に力を入れている。地域に出向き、関係機関に足をのばすことで繋がりを増やし、支援を必要とする人が網の目からこぼれ落ちないようにすることが解決策に通じるとの考えのもと、活動が続けている。

【その他】

認知症地域支援・ケア向上事業の取りまとめ役を担う地域包括支援センターとして、虹ねっと連絡会認知症支援部会や認知症キャラバン・メイト連絡会企画部会の運営を担っているほか、各会議での司会進行、資料の準備等を行い、豊中市全域にかかる認知症地域支援推進員が行う認知症施策の進捗管理を行なっている。

虹ねっと連絡会認知症支援部会が主催する「オレンジフェア」「専門職向け研修会」の開催に参画し、認知症に関する周知啓発と専門職のスキルアップ、ネットワーク構築を図っている。

総評

【特徴的な取組内容】

- 認知症地域支援推進員を中心に、認知症啓発活動の拡充に向け、センター一丸となって活動の基礎を築くことを目的とした取組が始められています。
- センター職員が運営法人の多岐にわたる事業について理解を深め、その活用や連携を図ることで、運営法人の得意分野を活かした支援の質の向上、地域活動の拡充等につながっています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- 認知症啓発や、介護保険の基本的な部分（できる事・できない事・使い方）等の周知啓発の拡充を期待します。
- 重層的支援が必要な事例でかかわる多機関の連携・共有を迅速化し、必要かつ適切な支援の拡充につなげられる展開に期待します。